

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374100523		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛		
所在地	愛知県東海市秩父町苅宿31番地の1		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2374100523-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人「サークル・福寿草」
所在地	名古屋市熱田区三本松町13番地19号
訪問調査日	平成25年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者様は要介護度1～5までと段階が大きいですが、それぞれに合った支援に努めている。老いても重度化してもご本人、ご家族様が最後まで安心して過ごしていただける支援体制をとっている地域との交流を大切にして(保育園児、ボランティア、敬老会、お祭りなど)穏やかな生活を送れるようにご家族様と連携をとりながら支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームを運営している法人は、在宅での生活が困難になっている方への家事援助から活動を始めている。その活動は、介護保険制度が始まった後も受け継がれ、ホームの支援の基本は、「ここはあなたの家ですよ」という思いから始められている。法人代表者は、高齢の今でも職員が作成する稟議書や報告書に目を通して、「ご苦労さん、ありがとう」と記入し、職員への激励を行っている。ホームでは、職員による支援を通じて、利用者も日常生活の中で一人ひとりができることに参加しており、食事や洗濯の際には、できることに参加している。また、利用者の生活に合わせた介護計画づくりに取り組んでおり、居室に仏壇を持ち込んでいるのみで終わらずに、介護計画の中に、利用者が仏壇にお茶をお供えすることを目標とすることで、前向きに生活してもらう取り組みが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここはあなたの家ですよ」という理念のもとに入所者様が自分の家と思えるような生活環境作りを話し合いながら実践し、毎朝心得を唱和し職員間の自覚をたかめている。	「ここはあなたの家ですよ」という思いを大切にしながら、「職員心得」を、毎朝、唱和しており、日頃から理念を意識した支援に取り組んでいる。また、理念を玄関に掲げており、来訪者にも知ってもらうように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣者同士の挨拶、駐車場の提供、防災時の助け合いなどの関係作り、ボランティア、園児との交流を通じてつながりを続けている。	町内会には入っていないが、日常的な交流の機会は得られており、地域で行われている祭事や防災訓練等に参加している。また、地域の保育園児の定期的な訪問の機会があり、ホームで交流会を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生、市職員研修、大学生のサービスランニングなどの受け入れや、バザーを通じて地域の方の参加を募っている。また市民交流会には作品展示をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの会議では状況報告や問題点を話し合い、出席者の意見や提案をミーティングでとりあげ取り組みに活かしている。	会議には、地域の方の出席が得られており、定期的に地域の活動状況や行事案内等を頂く等、情報交換の機会にもなっている。また、会議の内容を家族にも報告しており、ホームの理解を深めてもらうように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告により、活動や、サービス内容については理解していただいている。また運営上の相談、指導を受けながら協力関係作りを行っている。	広域連合で行われる研修会等に職員が出席しており、情報交換の機会としている。また、市の市民祭りへの作品の出展協力や、法人で、市の職員の研修の場として受け入れており、市の事業への強力にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで勉強会をもち、意見交換を行い必要時は家族の了解のもと安全確保のため玄関の施錠を行っている。	ホームは、身体拘束を行わない法人を掲げているが、見守りが困難な場所であり、夜間に利用者の外出があったことで、現状は玄関に施錠を行っている。また、会議の際には、職員には言葉遣い等にも意識するように話し合われている。	職員間で話し合いを重ねながら理解を深めることで、身体拘束とは何かを理解しながら、利用者へのより良い対応方法を考えていく、継続的な取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、研修会参加、新人教育など、その都度話し合いながら、職員の自覚を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けている職員も居るが、まだ勉強不足である。以前は後見人制度の利用者がおられたが現在は身元保証人制度を利用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約の締結、解約については入所時にご家族様と十分に話し合い理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での個別懇談、訪問時に話し合う機会を設けている。玄関先に意見箱の設置、外部評価の結果も提示している。(運営会議による提案)	家族会を年2回行い、食事をしながら交流を深めている。家族とは、利用料の支払いでホームに来てもらうことで、情報交換の機会をつくっている。定期的なホーム便りの他、計画作成担当者が、定期的に利用者の状況を文書にまとめて報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別懇談、ミーティングで話し合いを行っているが急を要する場合は朝の申し送りでも反映させている。	ホームでは、月1回会議を開催しており、管理者が職員間で話し合われた意見を代表者に報告している。また、管理者が現場にすることで、随時職員と面談を行っている他、年1回、個別面談を行う機会をつくっており、意見や要望の把握に取り組んでいる。	現状、法人内の各部署の責任者による会議等が十分に機能しているとは言いがたい。今後に向けた、職員間でより良いものをつくっていく、仕組みづくりに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得、研修費補助制度、各自の労働条件に合わせて契約を交わしている。代表者は日頃の働きぶりをよく理解し、労をねぎらってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加は自主的な参加と業務による参加があり、社内外の研修を受けている。新人研修は担当者を決めて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協議会に参加し勉強会を行っている。職員は他施設見学を行い向上に努めている。ミーティングで発表を行い他職員との勉強会につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることで今までとは違う不安を感じてしまう為、寄り添いながら支援することで少しでも気持ちの安定がはかれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いを傾聴し、面会に来られたときは本人の状況をお伝えしながら対話の時間をもち信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活の中で変化が表れるのでその変化を見落とさず、今、何が必要なかを常に心がけながら支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことの見極めを行い共に生活することを基本に考えている。洗濯物たたみ、食事の盛りつけ、配膳など一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆は本人を支える最も大切なことで、職員と家族が連携をとりながら本人が安心して生活が出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所しても今までの関係が途切れないよう、知人の訪問や外出の機会を持てるよう支援している(なじみの美容室など)。	ホームには、利用者の友人やかつてのボランティアの方が訪問する機会があり、馴染みの方との関係継続に取り組んでいる。また、家族とも食事や墓参り、馴染みの美容院に出かけている方もいるが、現状、自宅で家族と過ごす方は少ないのが現状である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴や個性の違いから難しい場面もあるが孤立しないように、職員の声かけや席替えを行うことで関わりがうまくいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡による退所がほとんどである。入院中もお見舞いや、最後のお別れにも参列し見送りに努めている。本人不在の為関係がうずれてしまうが、ご家族より本人が使っていたものを譲っていただくこともある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各自の希望、特に食生活(アレルギーがある場合は注意をはらっている。また嗜好品も本人の希望に添っている。水分補給等でも水筒に入れていつでも飲んでいただけるように支援している。	職員は、担当制で利用者の把握に取り組んでおり、3か月毎に利用者の状況を報告しながら、情報の共有に努めている。また、ホームでは、利用者一人ひとりに「今月の目標」を立てることで、その方に寄り添った支援につながるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や仏壇など、以前と変わらない生活環境づくりを支援しながら生活していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの過ごし方があるが自分で過ごし方がわからない方には本人の出来ることや好きなことを提案し、やっていただくことで不安が軽減して自信につながることもある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当制をおこなうことで、細やかな気配りとサービスを提供できるように支援している。職員間でお互いの目標を共有しながらその人に即した支援に努めている。	計画作成担当者は、3か月毎に利用者の情報をまとめながら、モニタリングにつなげており、その中で、状態等の変化が見受けられた際には、計画内容の見直しを行っている。職員は、利用者の目標に合わせ、日常の記録にも変化が分かる記録方法に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、申し送りノートなどで日々の変化の状態把握に努めている。毎月のミーティングでカンファを行い介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度支援が必要とされる中でその時にあった対応に努めている。通院介助の支援も柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事の外出支援、散歩、保育園児、ボランティアとの交流、知人の面会、バザーなどで地域との関わりが持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もかかりつけ医との関係を築くと共に重度化による医療体制が往診体制に変わりつつあり本人に合った受診支援を行っている。	ホームでは、利用者の状況等に合わせた医療面での支援が行われており、週1回の往診を受けている方もいる。また、ホームには看護師が勤務していることで、日頃の健康チェックを行いながら、医療面での家族に対する情報提供にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も常に介護に携わっており、介護職と連携している。急変時も24時間体制で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時、入退院時には医療、家族と3者で常に情報交換や状態の把握に努め、退院後の生活支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については家族の想いを受け入れ、医師との話し合いを何度も行っている。家族が納得いくまで話し合い想いを大切にしながら支援している。	ホームでは、看取りを見据えた支援を行う方針であり、家族とは、段階に応じた話し合いに努めており、緊急時に関する確認も行われている。また、職員の中には、たん吸引の研修を受けており、緊急時に備えながら、職員の資質向上にも取り組んでいる。	利用者の重度化が進んでいく中で、職員への資質向上に向けた取り組みを行うことは重要である。現状、ホームでの看取りの実績はないが、今後に向けて、より良い看取り支援につなげていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修や急変時の対応はマニュアル化し、ミーティングなどで周知をはかっている。ヒヤリハットを活用し職員全員が共有し、再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定火災訓練を行っている。災害時の避難場所が決まり、地域の方と連携が出来るように、ご近所様に避難誘導の補佐を依頼している。	年2回の避難訓練の際には、夜間想定や、併設している通所介護との合同の訓練も含まれており、職員の意識向上に取り組んでいる。ホーム2階には、代表者と親族が住んでいることで、緊急時の体制も整えられている。また、現状、水と米の確保は行われている。	今後に向けて、日常的な交流を重ねながら、地域の方との相互の協力関係が深まることを期待したい。また、緊急時に備えた備蓄品の確保についても、必要な検討に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や生活歴が違うように一人一人のプライドがあるため、さりげない声かけ、さりげない受け止めを行いながらその人らしさを大切にしている。	管理者より、職員には利用者に対して、大きな声でトイレへの声かけをしないこと等、日頃から意識するように伝えており、気になった際には、注意を促すように努めている。また、新人職員には、研修の機会をつくりながら、接遇面での向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自由に自分の想いを表せる関係づくりに努めている(傾聴する姿勢と表情や全身での反応を見落とさないようにしている)。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の生活パターンが確立出来るように一人一人のペースを大切にしている。自己でコントロール出来ない方にはその人に合った過ごし方を提供する場合もある(散歩、読書など)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性にとって身だしなみやおしゃれは楽しみであり、清潔感と季節にあった服装選びが出来るよう支援している。2ヶ月に一度の散髪や毎日の整容にも注意をはらっている(髭剃りなど)。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月10日はおたのしみ昼食会とし、利用者の要望でメニューを決め、一緒に作る楽しみや配膳、片付け等を行っている。おやつ作りもある。	食事は、昼食は併設の通所介護で調理しているが、夕食や日曜日はホームで調理を行っており、準備や片付け等、できることに参加している。また、定期的なおやつ作りの他、毎月、利用者の希望に合わせた昼食会を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は委託であるが毎月1回お楽しみ昼食会、おやつ作り、誕生会を行い共に楽しむ機会を設けている。日頃は盛り付け、配膳の手伝いをしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は厳しい方もあるが義歯の消毒(週2回)やマウススポンジによるケアなど、その人に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢化、重度化により自立支援はなかなか難しい。各自の排泄パターンに合わせトイレ誘導や声かけを行い、失敗を減らし不快なく過ごせるように支援している	職員は、利用者の排泄パターンをチェック表にチェックを行いながら、日頃から職員間で情報の共有に取り組んでおり、トイレでの排泄ができるように支援している。取り組みの結果、失禁の回数が減るようになる等、できる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操を行い身体を動かすようにしている。毎日排便チェックを行い便秘による不快や不穏に気をつけている。医師と相談し整腸剤の内服を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴になっている。入浴が楽しみな方、そうでない方もあり、それぞれに合った声かけを行いなるべく入浴出来るようにしている。就寝前の希望もあるが現実には難しい。	ホームでは、1日おきの週3回の入浴となっており、午後の時間に入浴している。浴室の入口に段差があるため、必要に応じてスロープを設置する等、重度の方も入浴できるように取り組んでいる。また、柚子湯や菖蒲湯の季節の楽しみもとりに入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室にて安眠出来るようにしている。一人になりたい時間も自由に休息できる。また布団干しやシーツ交換など定期的に行い清潔に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援、症状の変化は朝の申し送り時や通院介助報告の確認を行い支援している。日頃の状態の変化など、通院時ご家族様にも報告し、医師への報告につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事による外出や楽しみごとをおこなっている。本人の能力や想いを大切にして自分の存在感を感じていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の状態に合わせて散歩に出ることもあるが本人の希望を全て受け入れることは難しい。知人や家族の支援を受けながら行っている。年間行事による外出(花見、喫茶、食事会)の他に天気の良い日は散歩や青空喫茶を行っている。	ホームでは、現状、利用者の外出の機会が少なくなっているが、行事に合わせた外出として、花見や喫茶店等で出かける機会をつくっている。また、利用者の希望に合わせた少人数の外出に取り組んでおり、周辺地域への外出等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の価値観の大切さを理解している人がほとんどいない状態で管理は難しい。バザーや、買い物ツアー等で好きなものを買うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎは行っているが自ら希望されることはない。家族や知人に年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングで過ごされる時間が多いため娯楽や過ごしやすい雰囲気作りに努めている。大きな窓からは外の景色や陽差しを浴び日光浴ができる。写真や壁画を楽しむようにしている。	以前、リビングを拡張したこともあり、広い空間が確保されてあることで、利用者同士の距離が適当に保たれている。また、壁には、行事での様子を撮った写真や季節に合わせた飾り付けが行われており、過ごしやすい環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが自由に気のあった者同士で過ごせるようになっている。窓際にはソファもあり、くつろぐことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はそれぞれに個性があり馴染みの家具やベッドが配置されている。仏壇もあり、毎日のお参りやお茶をお供えする習慣となっている。	居室内には、利用者の馴染みの家具や仏壇等が持ち込まれており、手を合わせたり、家族との交流の機会にしている。また、趣味の大正琴を持ち込んだり、自分の作品を掲げている方もおり、一人ひとりの個性に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の目印や共有の場所には誰もが分かるように明記してある。空間をなるべく広くして車椅子が通りやすくし安全に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛

目標達成計画

作成日: 平成 26年 1月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践の充実と利用者様の安全を図る	①拘束のない支援の向上 ②利用者様の安全を図るための対策の充実	①現状の見直しと支援方法の確認を行う ②職員全体の意識の共有と見守りの強化を継続的に行う	10ヶ月
2	11	各部署ごとの会議は行われているが相互の意見交換や調整が行われていないや調整が行われていない	①各部署の連携を図る ②法人内の職員間の協力体制と資質の向上を図る	①各部署の責任者による会議を開催し目標や問題点を協議する ②各職員の交流と相互協力を依頼する	10ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。